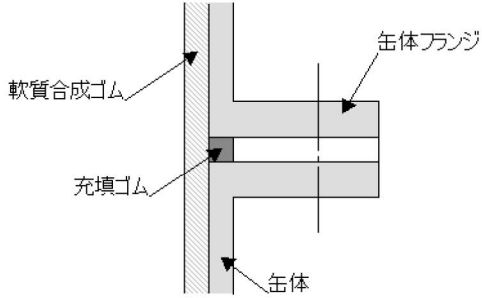


[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

御提案書	
技術分野	① (「技術提案募集の内容」の該当番号を記載願います)
御提案件名	ボルト締め型タンクの内面ゴムライニングによる漏洩防止
御提案者	日本海護謨株式会社
<p>1. 技術等の概要 (特徴、仕様、性能、保有者など)</p> <p>施工要領</p> <ul style="list-style-type: none"> ・缶体ケレン(ブラスト処理) ・フランジ部すき間にゴムを充填 充填ゴムを使用することにより2重の漏洩防止策となる。 ・当該タンク内面に『加硫済みのゴムシート』によりゴムライニング全面施工することにより漏洩防止 部分的なライニング施工はすき間腐食によりゴム剥離を起こすため推奨できない。 <p>加硫済みゴムシートを推奨する理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該作業場所において加硫用熱源を確保することが困難である。 ・自然加硫タイプでは、加硫が完了するまで時間が掛かり、使用開始可能時期が延びる。 <div style="text-align: right;">  </div> <p>軟質加硫済みゴムシートライニング施工による利点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事検査完了後、直ちに使用可能である。 ・軟質ゴムの使用により缶体の(地震、気温差による)変形に対し追従することができ、他のライニング材と違い切れ、割れ等の発生がない。 ・ゴムライニングのピンホール発生の有無を監視することにより、タンク外への漏洩前に異常を察知でき、漏洩を防止することができる。 	
<p>2. 備考 (以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発・実用化の状況 (国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む) <ul style="list-style-type: none"> ・ゴムライニング施工技術は既知の技術であり、化学プラントなどで多くの実績あり。 弊社以外のゴムライニングメーカーも施工可能。 ・工期については、作業環境、投入人員等により違いが出ると思われるが、1基当たり概ね1~2ヶ月程度必要と考える。 ・開発・実用化に向けた課題・留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・フランジ接続部以外の溶接箇所及び構造が、ゴムライニング施工可能な状態であるか、又は手直し可能な状態であるか不明である。 ・その他 (特許等を保有している場合の参照情報等) 	